

「本四連絡橋通行料金引下げに関するアンケート」
調査結果について

平成 21 年 3 月 25 日
四 国 経 済 連 合 会

【本件についてのお問い合わせ先】
四国経済連合会 調査部
部 長 田頭（たがしら）
調査役 渡部（わたなべ）
TEL 087-851-6032

国の経済対策の一環として、本四連絡橋の通行料金が3月20日から大幅に引下げられており、一般の高速道路料金も3月28日から引下げが実施されます。特に、土・日・祝日の乗用車の場合、本四連絡橋と高速道路の通行料金は、それぞれ一気に上限千円になります。(ETC利用が条件。首都圏・京阪神圏の高速道路は除く)

こうした本四連絡橋・高速道路の通行料金引下げによる効果を検討するため、この度、四国経済連合会(会長：大西淳四国電力(株)会長)では、全国の方々を対象にアンケート調査を実施しました。

その結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

〔アンケート実施要領〕

(1) 調査方法：四経連が運営するホームページ「ウェルカム！四国」を通じたインターネットによるアンケート調査

(2) 調査期間：平成21年2月20日～3月10日

(3) 有効回答：7,796名(うち四国外：7,246名、四国内：550名)

(4) 回答者の属性

性別 男性：51.5%、女性：48.5%

年齢別構成比 (下段は、総務省「住民基本台帳人口」(平成20年3月31日現在)によるわが国の年齢別人口) (%)

19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
2.0	15.6	31.5	26.1	16.4	7.1	1.3
(18.5)	(11.6)	(14.8)	(12.5)	(14.1)	(13.0)	(15.4)

地域別構成比 (下段は、総務省「住民基本台帳人口」(平成20年3月31日現在)によるわが国の地域別人口) (%)

北海道	東北	関東	甲信越	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州・沖縄
3.2	4.6	31.0	3.1	12.5	2.2	21.0	7.8	7.1	7.5
(4.4)	(7.5)	(32.6)	(4.3)	(11.7)	(2.4)	(16.3)	(6.0)	(3.2)	(11.6)

〔アンケート調査結果の概要〕

- ・ 今回の高速道路の料金引下げ措置については、72.5%が知っており、居住地域別では、一番認知度の低い関東でも6割以上の人を知っていた。
- ・ これに対し、本四連絡橋の料金引下げを知っていた人は、34.3%にとどまった。居住地域別では、四国が74.4%と高いものの、中国では53.0%、近畿では41.9%にとどまる。さらに、これ以外の地域では、本四連絡橋の料金引下げを知っている人は、2割～3割弱しかいない。
- ・ これまで本四連絡橋を渡ったことのある人は、44.1%であった。一方、「料金が引き下げられるから渡りたい人」が71.3%を占めるなど、今回の割引措置が行われる2年間のうちに、橋を渡りたいという人が84.7%に達している。
- ・ 橋を渡り、四国で行ってみたい所としては、「四万十・足摺周辺」、「松山」、「徳島・鳴門」などが上位に並び、四国全域への来訪が期待される。その際には2泊3日の旅行をしたいという人が52.0%を占めるなど、日帰りよりも宿泊旅行をしたいという人が多数を占めた。

〔調査結果からの示唆〕

- ・ 本四連絡橋の料金が引下げられるなら橋を渡りたいという人は、地域を問わず非常に多い。一方で、今回の橋の料金引下げについて、四国以外の人には「知らない」という人が多かった。このため、本四連絡橋の料金引下げの全国へのPRを強化する必要がある。(本調査後、本四連絡橋料金引下げが実施された3月20日前後のマスコミ報道によって、認知度が高まった可能性はある。)
- ・ 今年から来年にかけて、四国を舞台にしたNHKドラマ(「ウェルかめ」「坂の上の雲」「龍馬伝」)が相次いで放送され、四国への関心が高まることが予想される。これらのドラマ放映と、橋や高速道路の料金引下げとを効果的に絡めて全国、特に、隣接する中国、近畿地方への情報発信を強化するなど、四国を挙げて交流人口拡大に取り組んでゆかねばならない。
- ・ 今回の措置は、景気対策であると同時に、四国が本四連絡橋の料金引下げを地域活性化に確実に結びつけてゆけるかどうかの試金石であり、四国が一つになって橋の利用促進に取り組んでゆく必要がある。3月20日の橋の料金引下げ実施により、本四3橋の交通量が2倍に増えるなど、大きな効果が現われている。今後、一般の高速道路の料金引下げと相まって、来訪者の増加が期待されるが、一過性にすることなく、受け入れ態勢の充実など、四国にくり返し来てもらえる地域づくりを進めることが重要である。

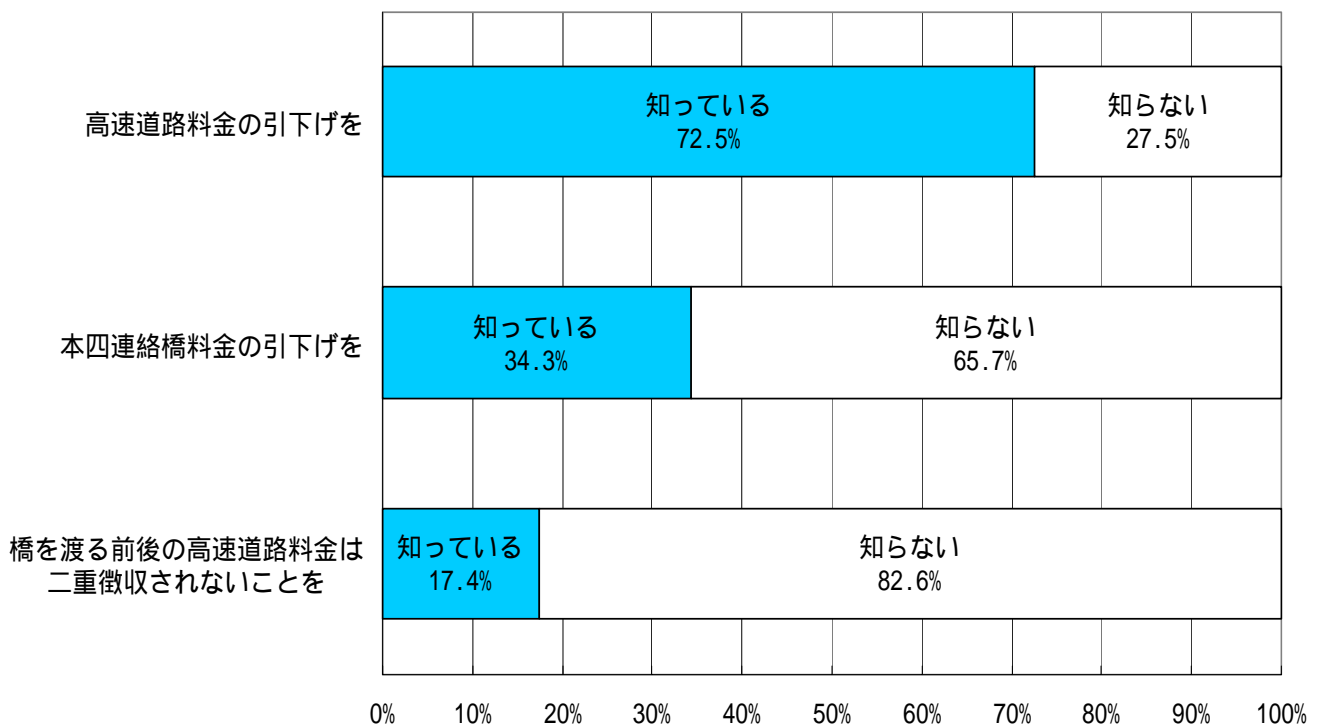
3/20～3/22(三連休)の3橋合計の交通量(普通車・軽乗用車・自動二輪)は、一日平均72,200台
3/14～3/15(前週末)の3橋合計の交通量(普通車・軽乗用車・自動二輪)は、一日平均35,400台

〔調査結果〕



1. 料金引下げを知っているかどうか。

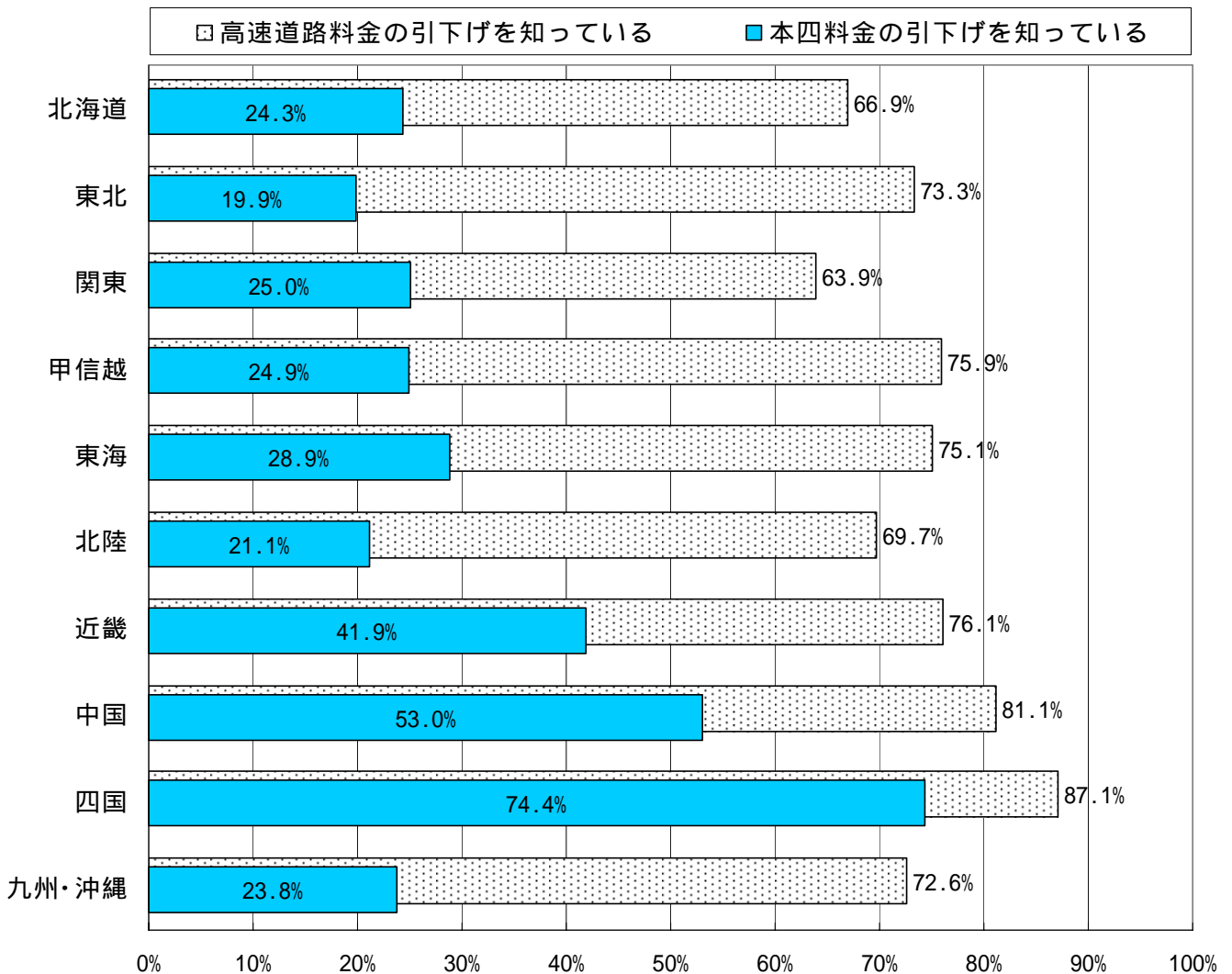
問： 高速道路の通行料金が上限千円に引下げられることをご存知でしたか。
本四連絡橋の通行料金が上限千円に引下げられることをご存知でしたか。
本四連絡橋を経由する場合、橋を渡る前の高速道路と、渡った後の高速道路の通行料金は、二重徴収せずに、合わせて上限千円になることをご存知でしたか。

- ・ 高速道路の料金引下げについては、72.5%が「知っている」と回答した。
- ・ 一方、本四連絡橋の料金引下げについて「知っている」と回答した人は、全体の約3分の1の34.3%にとどまり、約3分の2は「知らない」と回答した。
- ・ また、本四連絡橋を使用する前後の高速道路は、料金が二重徴収されず、合算して上限千円になることを知っている人はさらに少なく、17.4%にとどまった。
- ・ 高速道路の料金引下げに比べ、本四連絡橋の料金引下げについては、全国的にあまり知られておらず、PRを強化する必要がある。
(本調査後、本四連絡橋料金引下げが実施された3月20日前後のマスコミ報道によって、認知度が上がった可能性はある。)



〔居住地域別に見た料金引下げの認知度〕

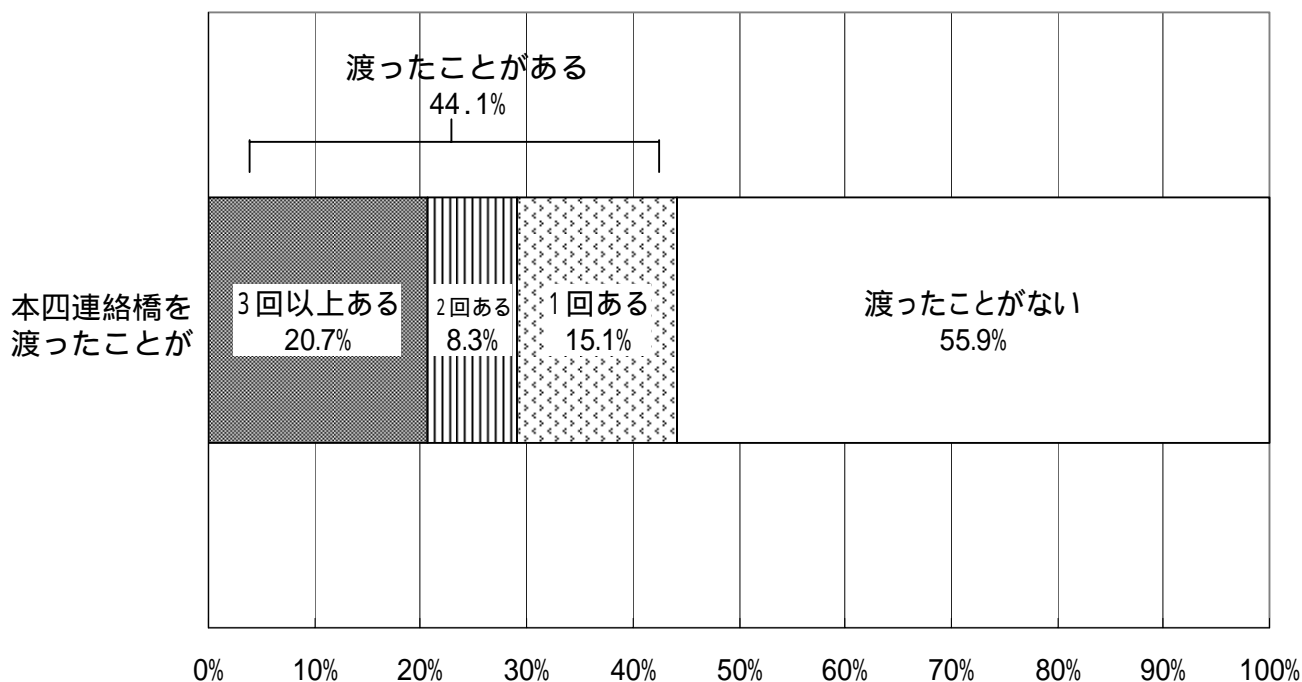
- ・回答者の居住地域別に見ると、高速道路料金の引下げを知っている人は、四国が 87.1%、中国 81.1%と高く、一番低い関東でも 63.9%の人が知っている。(下図の )
- ・これに対し、本四連絡橋の料金引下げを知っている人は、四国が 74.4%と高いものの、中国では 53.0%、近畿では 41.9%にとどまる。さらに、これ以外の地域では、本四連絡橋の料金引下げを知っている人は、2割～3割弱しかいない。(下図の )
- ・どの地域も、本四連絡橋の料金引下げを知っている人の割合は、高速道路の料金引下げを知っている人の割合に比べ、かなり低い。今回の措置が、四国にとって大きな効果を生むためには、本四連絡橋の料金引下げについて、広報活動を強化するとともに、四国に近い中国、近畿地方などからの集客努力を進める必要がある。



2. 本四連絡橋を渡ったことがあるか。

問：あなたは、車（マイカー、レンタカー等）で本四連絡橋を渡ったことがありますか。（バス利用や業務目的で渡った場合は除きます。車の助手席などに同乗する場合を含みます。）

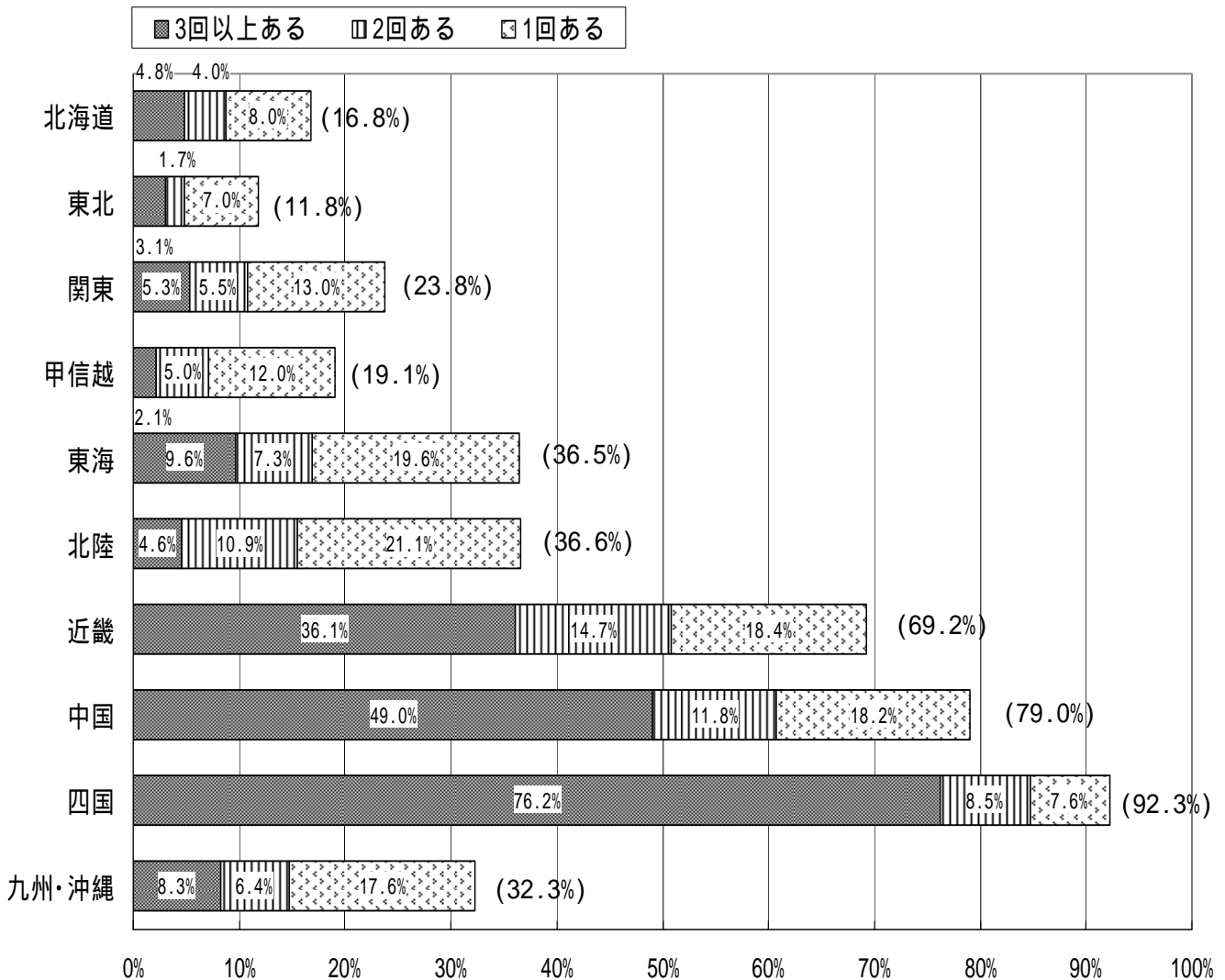
- ・これまで本四連絡橋を車で渡った経験があるかどうかを尋ねたところ、渡ったことが「3回以上」ある人が20.7%、「2回」が8.3%、「1回」が15.1%と、合計で44.1%の人が本四連絡橋を渡った経験があった。



〔居住地域別に見た本四連絡橋の利用経験〕

- ・居住地域別に見てみると、本四連絡橋を車で渡ったことのある人の割合は、四国 92.3%、中国 79.0%、近畿 69.2%の順に高い。利用回数をみると、四国では、「3回以上」渡ったことがある人が 76.2%を占めるなど、本四連絡橋が架かっている3地域では、本四連絡橋を複数回利用した経験がある人の割合が高い。
- ・一方、北陸(36.6%)、東海(36.5%)、九州・沖縄(32.3%)も3割強が橋を渡った経験を持っているが、1回だけという人が多い。当然のことながら、橋から離れた地域ほど、橋の利用経験が少なくなっている。

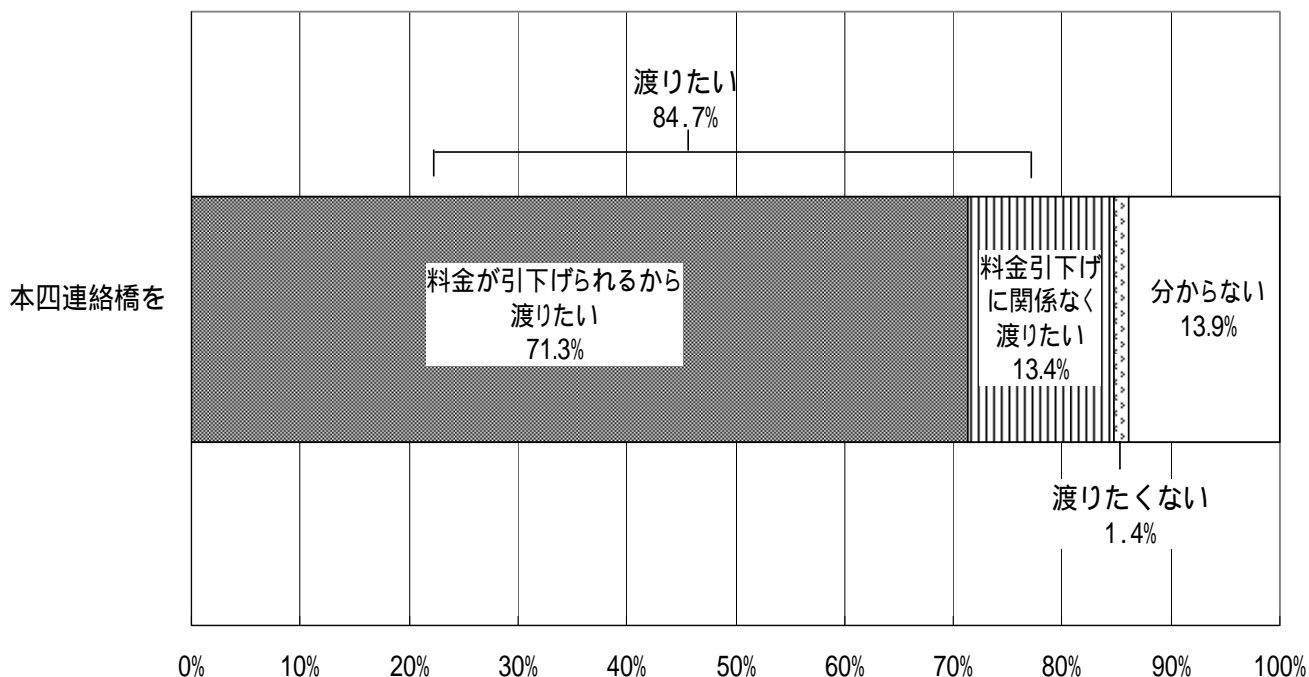
これまでに本四連絡橋を渡った回数
(カッコは渡ったことのある人の割合)



3. 料金引下げの期間中（今後2年間）に本四連絡橋を渡ってみたいか。

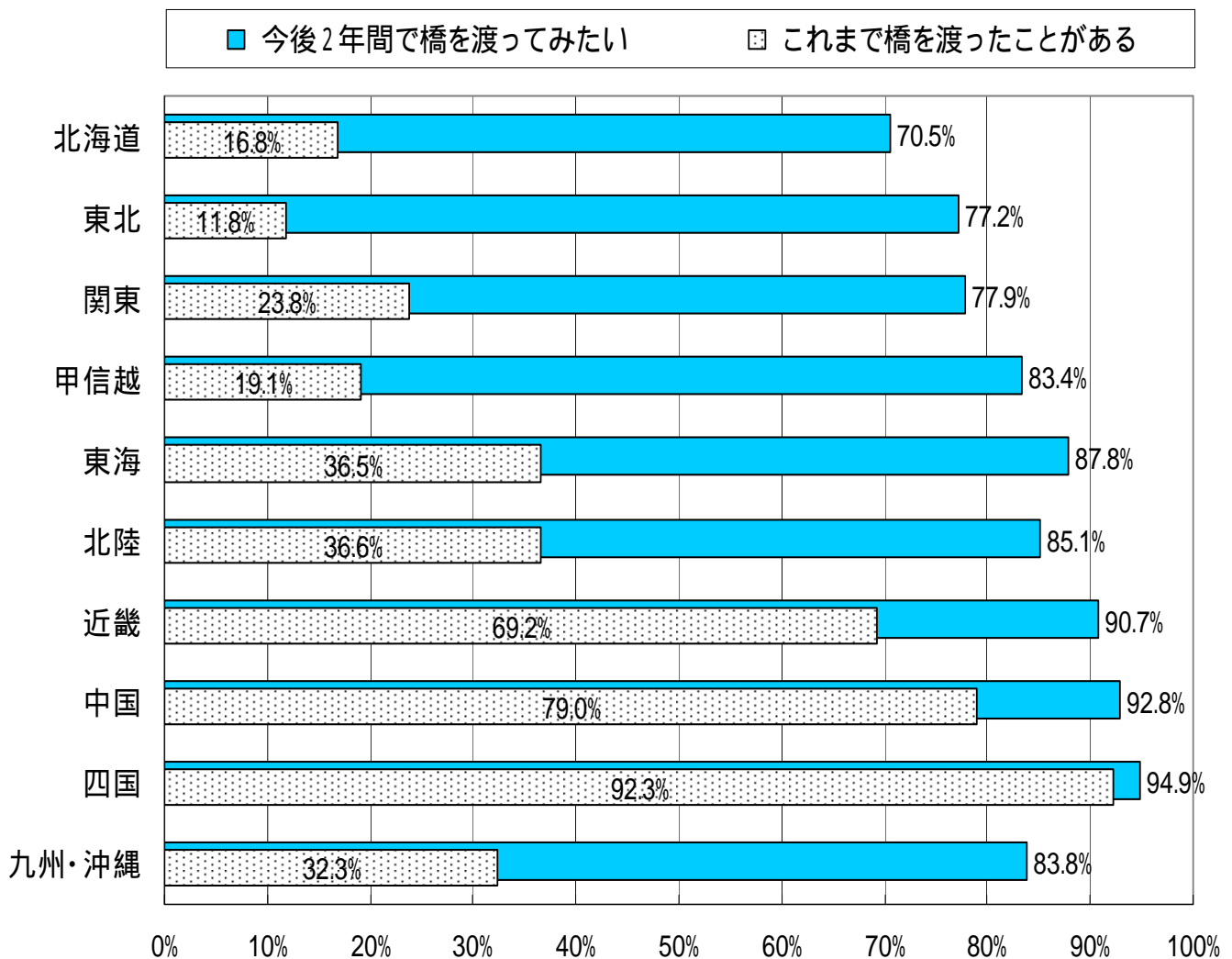
問：高速道路および本四連絡橋の通行料金引下げにより、例えば本州から四国各地へは、どこまで行っても通行料金は上限2,000円で済みます。この料金引下げは、2年間の期間限定で行われますが、この2年間に本四連絡橋を車（マイカー、レンタカー等）で渡ってみたいと思いますか。

- ・ 「料金が引下げられるから渡りたい」という人が71.3%を占めた。また、「料金引下げに関係なく渡りたい」という人の13.4%と合わせると、84.7%の人がこの2年間に本四連絡橋を渡りたいとの意向を示した。



〔居住地域別に見た今後2年間の本四連絡橋の利用意向〕

- ・居住地域別に見ると、今後2年間で本四連絡橋を渡ってみたいという人は、四国 94.9%、中国 92.8%、近畿 90.7%と、橋の架かっている3地域では9割を超えて非常に高い割合を示した。これら3地域以外でも、概ね7割～9割弱を占めており、本四連絡橋を渡ることへの関心はかなり高い。(下図の■)
- ・また、これまで橋を渡った経験のある人の割合(下図の▨)と比べて、「渡ってみたい」という人の割合が、全ての地域で大幅に上回っている。高速道路と本四連絡橋のセットによる料金引下げは、近隣はもとより、遠隔地からも四国に誘客できる可能性を持っている。

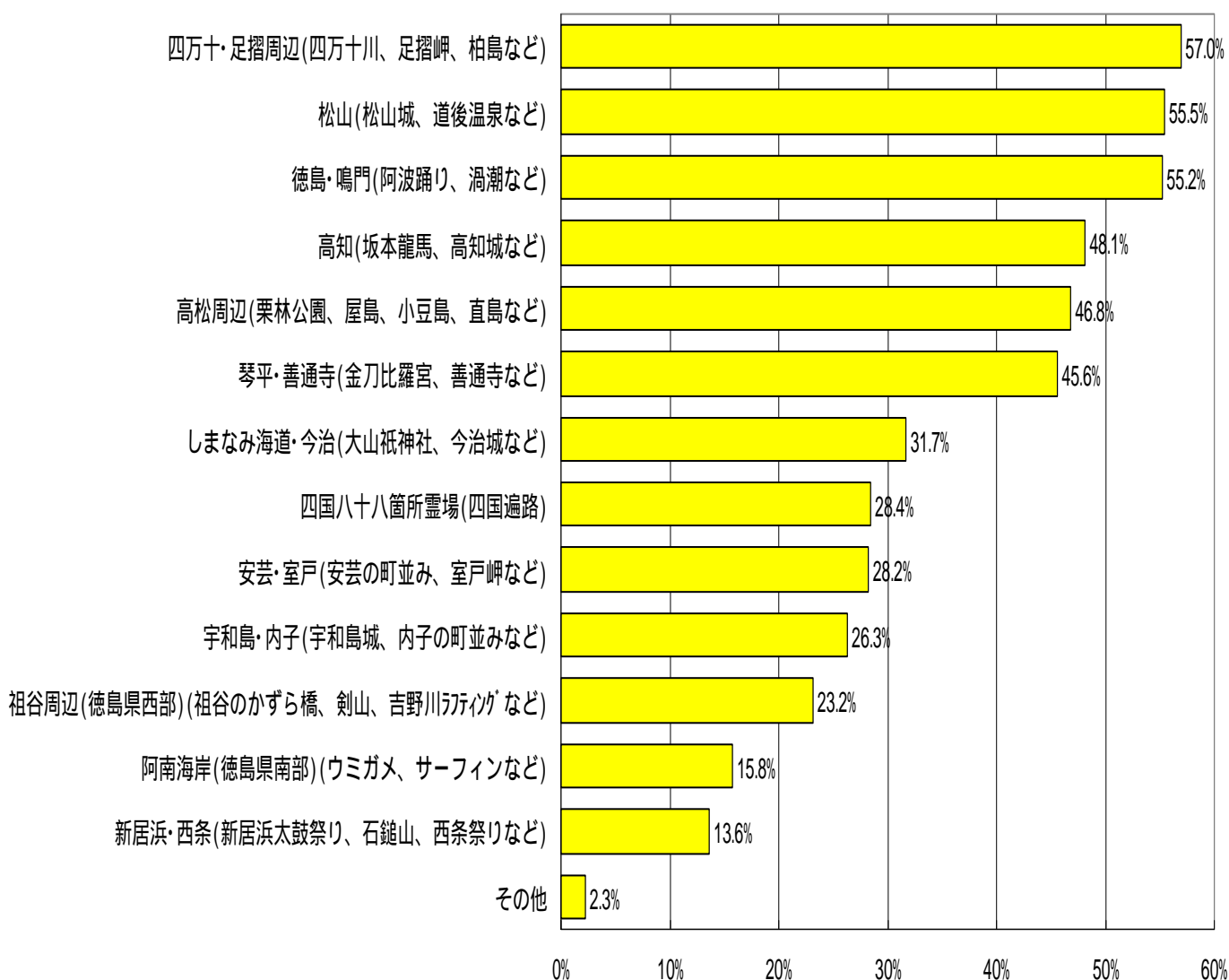


～ 以下、四国以外に在住の方で、かつ前問で、本四連絡橋を「料金が引下げられるから渡りたい」または「料金引下げに関係なく渡りたい」と回答した方（6,082名）が対象 ～

4 . 四国のどこへ行ってみたいか。

問：本四連絡橋を渡って、四国のどこに行きたいですか。
（該当するものをいくつでも）

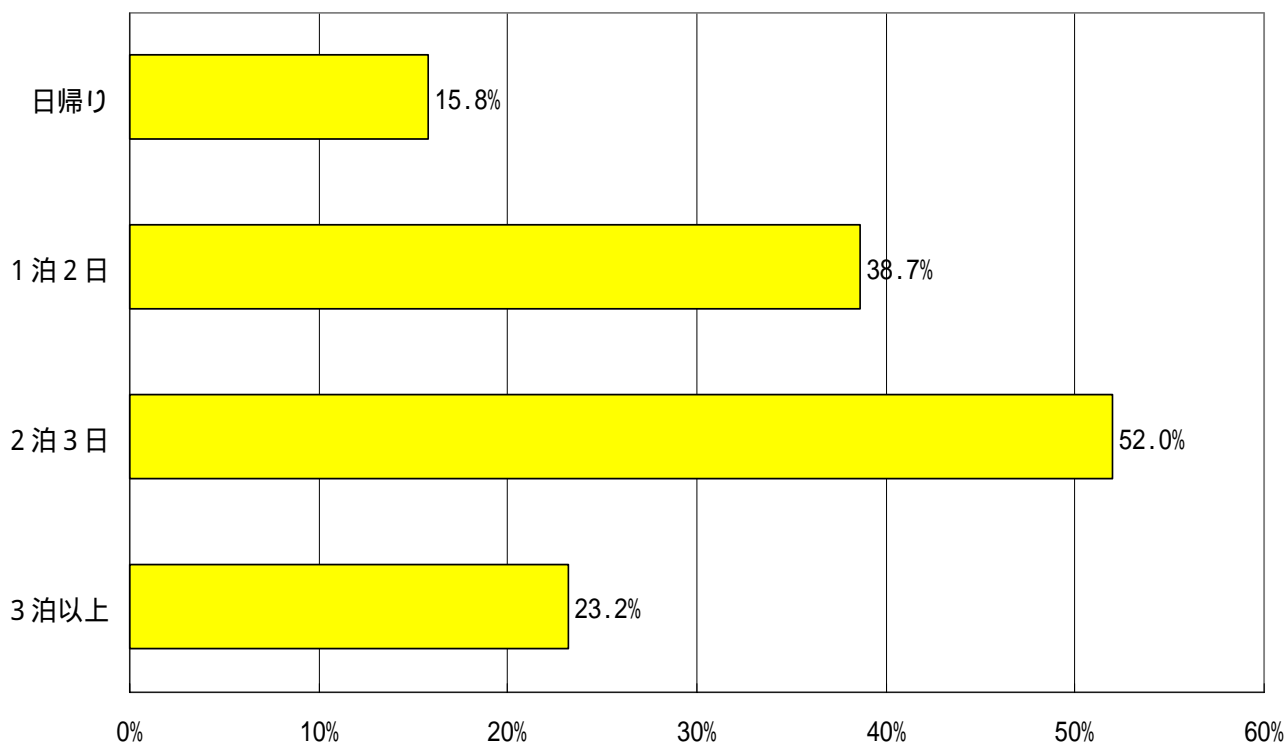
- ・ 四国で行きたい所としては、「四万十・足摺周辺」57.0%、「松山」55.5%、「徳島・鳴門」55.2%が上位を占め、次いで、「高知」48.1%、「高松周辺」46.8%、「琴平・善通寺」45.6%の順となっており、四国全域への来訪者の増加が期待される。



5 . 四国での滞在期間は。

問：料金引下げが行われる2年間に、四国への日帰り・宿泊旅行をどの程度したいですか。(該当するものをいくつでも)

- ・ 「2泊3日」52.0%、「1泊2日」38.7%の回答が多く、四国を訪れる場合には、日帰り旅行よりも、1～2泊の宿泊旅行をしたいとの希望を持つ人が多い。



以 上